
代表理事就任のご挨拶

東北大学大学院医学系研究科医学統計学分野 /
東北大学病院臨床試験データセンター教授
山口拓洋

改めまして、学会員のみなさまに、本年3月に代表理事に選任され就任いたしましたことをご報告申し上げます。

本学会の前身である日本臨床試験研究会設立時（2009年9月1日）から代表理事を務められ、本学会の発展に多大な貢献をされた大橋靖雄先生が去る3月11日にご逝去されました。心から哀悼の意を表しますとともに、先生のご遺志を引き継ぎ、本学会のさらなる発展を目指す所存であります。

代表理事就任にあたり、初心に戻り当学会のミッションを見直してみました。

『臨床試験・臨床研究の最も重要な基盤は、研究を計画かつ遂行する、またこれらの活動を支援する専門職の存在とその養成にあると我々は認識しています。本学会のミッションは、臨床試験・臨床研究に携わる専門職全体の知識と技術の向上をはかり、職種の枠を超えた情報交換と研究活動を推進することで、我が国の臨床試験・臨床研究の推進及び質の向上に寄与することです。そのために、専門職が一堂に会する集会と生涯教育のための研修会を開催し、定期刊行物発行とホームページによる情報提供を行ないます。国際的な連携も考慮し、また国内関連組織と協調し、専門職認定制度を設立する事も将来の課題といたします。』

同ミッションは、2009年9月1日（当時は日本臨床試験研究会）に掲げられたものですが、現在でも全く遜色ない、当学会に与えられた使命だと再認識いたしました。本ミッションに従い、GCPパスポート試験に代表される認定制度、学術集会、セミナーを通じた教育・研修活動、日本臨床試験学会雑誌の刊行、各種ワーキンググループの発足など、当学会ではさまざまな活動を行い、微力ながら本邦の臨床試験・臨床研究の発展に寄与してまいりました。おかげさまで、会員数も現在1252名と、1000名を大きく超えております。

一方、臨床試験・臨床研究をとりまく環境は、近年の法規制やITの進歩などの急激な変化に伴い大きく変化し、さまざまなデータソースも利用可能となり、実験研究と観察研究の垣根もなくなってきました。COVID-19の影響を受け、臨床試験・臨床研究の被験者（もちろん臨床試験に関わるすべての人々も）の安全性を考慮した、より柔軟かつ効率的な研究方法論を考えなければなりません。臨床試験・臨床研究の中心的な役割を担う医師をはじめとして、これまで以上に多職種が関与し専門性が活かされる必要があり、職種間連携やコミュニケーションが重要です。また、当学会においても患者・市民参画活動が必要と認識しておりますが、決して形骸化しないよう考慮する必要があります。

さらに、これまで以上に、臨床試験・臨床研究を支援する専門職である当学会員の知識と技術の向上に貢献し、多職種間での情報共有の機会を提供し、学会員の将来のキャリアパスを考慮した学会員のための活動が行えるような、より開かれた学会体制を構築することも重要な課題と考えております。具体的には、学会の運営組織、すなわち、現在の理事会、各種

運営委員会の、それぞれの役割分担を見直し全体の体制を再構築するとともに、より多くの情報発信を行い学会員と情報共有を行えるような環境を整備し、教育研修の方法、認定制度のあり方についても、これまでの成果を踏まえつつ検討を行う所存です。また、これまでほぼ実現できていなかった、他関連団体（各専門職の学会等）との連携についても、積極的に進めたいと思っております。組織マネジメント体制を一から見直します。当学会のために汗をかいて地味に頑張ってくださっている学会員のみなさまが、きちんと評価され、当学会で胸を張ってご活躍できるような学会にしたいと思っています。産官学の垣根も取り払いたいです。

コロナ禍も相まってわれわれを取り巻く環境は大変厳しい状況ではございますが、学会員のみなさまのお力をお借りして、微力ながら精一杯頑張りますので、ご指導ご支援を賜りますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

末筆ながら、不出来な弟子として大橋靖雄先生の想いを引き継ぎ、学会としてさらに発展できるように。

第9回学術集会総会 in 仙台 より

